

## 挨拶

公益社団法人  
全日本学生スキー連盟 会長

若 月 等



秩父宮杯・秩父宮妃杯「第99回全日本学生スキー選手権大会」はここ数年のインバウンドの来場増、雪不足などの温暖化問題、ジャンプ台の施設減、総合スポーツ競技大会の受け入れ先の減少等の事情により、同一会場、同時期に開催することがここ数年困難な状況となっております。今大会はアルペンのスピード系が猪苗代町、技術系が上田市、クロスカントリーは名寄市、スプリントは妙高市、ジャンプ、コンバインドは名寄市・士別市と、五つの市と町での分散開催となりました。開催に向けて地元の市町村、スキー場、スキー連盟など多くの関係者の皆様の多大なるご尽力を頂いたことに対して、全日本学生スキー連盟の選手、役員、大学関係者を代表してお礼申し上げます。

ここ数年来の新型コロナウイルスやインフルエンザの蔓延など、選手諸君や各大学の関係者も大変ご苦労された事と思いますが、健康面や怪我には細心の注意を払って頂き、個々の成績はもとより、母校の名誉、誇りを持って熱き戦いを繰り広げられますようお願い申し上げます。

また、今シーズンはイタリアで開催されるオリンピックでは当連盟からも多くの現役選手やOB,OGが活躍されることを期待するとともに、この全日本学生スキー選手権大会で活躍した選手が世界で活躍するキックオフになる大会として、選手はもとよりコーチ役員とも協力をはかり、素晴らしい大会とするべく努めて参ります。

1998年開催の長野オリンピックでは男女12種目であった雪上種目も現在26種目となりました。このようなスポーツの多様化に加え、人口の減少、物価の高騰、不祥事に対する厳しい評価など世の中のさまざまな変化の中、当連盟も創立100周年を迎えようとしております。これを機に当連盟もこれからの100年に向け、新たな方向性、改革を進めて参ります。

本大会に参加する選手諸君には全日本学生スキー連盟の伝統と誇りを胸に刻み、世界に羽ばたいて頂くことを期待するとともに加盟大学、大会関係者の多大なるご尽力に心より感謝し、本大会の成功と関係各位の皆様を重ねて熱くお礼申し上げ、挨拶とさせていただきます。

公益財団法人  
全日本スキー連盟 会長

原 田 雅 彦



「第99回全日本学生スキー選手権大会」が開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。今大会はアルペン種目は福島県猪苗代町と長野県上田市、ノルディック種目は新潟県妙高市と北海道名寄市と、各競技において分散開催となります。近年では冬季競技の大規模な全国大会の開催地が限られるなか、新たな開催の形式を模索する大会になると感じております。各競技の開催地は、これまで数多くの国際大会・国内トップレベルの大会を開催に導いてきており、これまで各地が培ってきた全国大会の開催や競技運営のノウハウによって、かならずや今大会を成功に導いてくれるものと信じております。また、この社会情勢のなかで学生たちの活躍の場を確保していただ

ていることに、あらためて感謝申し上げます。

来年には大きな節目となる第100回大会を迎えます。100年にも及ぶ大会の歴史のなかで、この大会をステップにして多くの選手が世界のスキー競技の舞台へ羽ばたいていきました。選手強化や育成、指導者の養成といった面で重要な役割を持った大会であることに加え、それだけ多くの学生スキーヤーを輩出してきたということは、スキー競技の普及・振興の面でも多大なる貢献を果たしているという事でもあります。参加される選手の皆様にも、この大会が積み重ねてきた伝統や思いを継承していただき、日ごろ培った力と技を存分に発揮し、観る者に夢や希望を与えられるような熱い戦いを繰り広げていただけることを願っております。

終わりに、本大会の開催にあたり、多大なるご尽力を賜りましたすべての関係団体、諸機関、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げ、併せて大会の成功を祈念し、ごあいさつとさせていただきます。

公益財団法人  
長野県スキー連盟 会長

北 野 貴 裕



輝かしい歴史と伝統ある第99回全日本学生スキー選手権大会を長野県菅平高原パインビークオオマツスキー場で開催されますことに大会に参加される選手諸君はもとより多くの関係者に対し心より歓迎とお喜びを申し上げます。

本大会は輝かしい歴史と組織力により、わが国学生スキー界を常にリードし、スキー競技の普及と発展に大いに貢献されている権威ある大会であります。

近年のスキー競技は、世界レベルの速さと、飛躍力を求められるスポーツに進化し続け、参加される選手諸君は不屈の闘志で日々厳しいトレーニングに精進され、それぞれの目標とチームの優勝に向けてチャレンジされています。本大会において選手皆様の目標と母校の名誉を達成していただくために、地元菅平高原をはじめスキー関係者が全力でサポートさせていただく所存であります。来る2026年2月にはミラノ・コルチナダンベッツォ冬季オリンピック大会が開催されます。わが国のスキー界にとってはこれまでの活動成果が試される時であり、選手諸君の皆様は日本スキー界のリーダーとして、本大会からワールドカップやオリンピックへと世界に羽ばたく大きなチャンスをつかみ取っていただきたいと強く願っております。結びに、本大会がより多くのスキー界への実りとなりますよう全ての関係者の皆様に対し厚く御礼を申し上げ、祝辞といたします。

上田市長

土 屋 陽 一



伝統と歴史を誇る、秩父宮杯、秩父宮紀杯「第99回全日本学生スキー選手権大会」が、上田市を含む全国5市町を会場として、盛大に開催されますことは、当市にとりましても誠に光栄であります。本大会に参加される選手・監督・役員及び関係者の皆様を心より歓迎いたします。

上田市は、長野県の東部に位置し、日本最長の千曲川が中央を横断するように流れ、南北に美ヶ原と菅平の二つの高原を有する自然豊かなまちです。市内には寺社などの文化遺産が数多く残り、戦国時代には全国にその名を轟かせた真田氏ゆかりの地としても知られています。

大会会場である、菅平高原は日本百名山の一つである四阿山と根子岳のふもとに位置し、真夏の平均気温が19.6度と大変さわやかな気候です。その快適さを求めて全国各地からラグビーやサッカーなどの強豪チームが合宿に訪れています。

近年は、陸上の高地トレーニングの合宿地としても知られ、オリンピックの日本代表選手をはじめとする、多くのトップアスリートが訪れます。

冬には白銀のパウダースノーにひかれた数多くのスキーマーで賑わいます。昭和5年、近代スキーの父、ハンネス・シュナイダー氏が菅平高原を訪れ、日本で初めてのシュプールを描き、その環境や美しさを絶賛したことから、現在に至るまで全国有数のスキー場として親しまれています。

当市ではジャイアントスラローム・スラロームの2種目が予定されており、日頃から積み重ねた力と技を存分に発揮され、母校の代表としての誇りを胸に、感動を与える熱戦を繰り広げられることを期待しております。

参加される皆様におかれましては、事前の準備と体調管理に万全を期していただき、安全第一で大会に臨まれるよう心よりお願い申し上げます。併せて、選手間の交流を深め、上田の恵まれた自然や味覚、観光を存分に楽しんでいただければ幸いです。

結びに、大会の開催に向けてご尽力くださいました関係者の皆様に深く敬意を表しますとともに、本大会の成功と参加者の皆様のご健闘を心より祈念し、歓迎の言葉といたします。

名寄市長

加 藤 剛 士



伝統と歴史を誇る、秩父宮杯・秩父宮妃杯「第99回全日本学生スキー選手権大会」が、北海道名寄市・士別市、福島県猪苗代町、新潟県妙高市、そして長野県上田市と、各地の素晴らしい競技会場を舞台に盛大に開催されますことは、開催地市長として誠に光栄であり、参加される皆様を市民とともに心より歓迎申し上げます。

本市は国内有数の雪質と積雪量を誇り、古くから「スキーのまち」として歩んでまいりました。ノルディック種目の主会場となる「名寄ピヤシリシャンツェ」および「なよろ健康の森」は、これまで幾多の熱戦が繰り広げられてきた伝統あるフィールドであり、シーズンを通して多くの選手が自己の限界に挑むべく集う国内有数の競技拠点として親しまれております。

学生スキー界最高の伝統を誇る本大会は、これまで数多くのオリンピックを輩出し、日本のウィンタースポーツ界を牽引してこられました。来年に第100回の記念大会を控えた今大会において、全国から集結した学生アスリートの皆様が、各会場で母校の誇りを胸に、日頃の鍛錬の成果を遺憾なく発揮されることを期待しております。皆様の若さ溢れる情熱的な走りや跳躍は、観る者に大きな勇気と感動を与えてくれるものと確信しております。

現在、名寄市では、本市の基幹産業であり生産量日本一を誇る「もち米」の振興とともに、恵まれた冬の環境を活かしたスポーツによる活力あるまちづくりを推進しております。競技の合間には、本市自慢の「名寄産もち米」を用いた数々の逸品を是非ご賞味ください。アスリートのエネルギー源としても優れた名寄の食を通じ、北国ならではの温かなおもてなしを感じていただければ幸いです。

結びに、本大会の開催にあたり、各地の会場準備に多大なるご尽力を賜りました公益社団法人全日本学生スキー連盟をはじめ、関係各位に深く感謝申し上げますとともに、選手の皆様のご健闘と全会場での大会の成功、連盟の益々のご発展を祈念いたしまして、歓迎の挨拶といたします。

士別市長

渡 辺 英 次



「離れた雪上で、ひとつの青春」の大会スローガンのもと、全国から多くの選手、監督並びに大会関係者の皆様をお迎えし、秩父宮杯・秩父宮妃杯「第99回全日本学生スキー選手権大会」が、羊のまち「サフォークランド士別」において盛大に開催されますことに、市民を代表して心から歓迎申し上げます。

士別市は、北海道北部に位置し、年間延べ約2万人のアスリートが合宿や大会参加で訪れており、それぞれの目標達成に向けてトレーニングに励む選手たちを迎える「合宿の聖地」をめざしています。

本市におけるスキー合宿は昭和36年の三望台シャンツェ造成を機に、高校生の合宿を受け入れたことから始まり、現在ではジュニア選手を中心に全国から多くの選手が合宿に訪れています。また、近年ではインカレの事前合宿地として、多くの大学生の皆さんにも利用をいただいているところです。

今大会のジャンプ競技会場の一つである朝日三望台シャンツェは、本市におけるスポーツ合宿の拠点施設であり、令和6年度の大規模改修により、安全性、機能性の向上を図るとともに、最新の全日本スキー連盟競技規則に適合した施設にリニューアルし、安心して競技に集中し、最高のパフォーマンスを発揮できる環境が整っています。

本市は、羊のまち「サフォークランド士別」を掲げているほか、安全・安心で良食味の農畜産物を生産する「農業のまち」であり、道立自然公園「天塩岳」をはじめとする山々や北海道第2の大河「天塩川」の流域にある水と緑豊かな自然あふれるまちでもあります。ぜひ、大会の思い出とともに、本市の魅力を堪能いただければ幸いです。

結びに、本大会に出場されるすべての選手が、日頃の練習の成果を存分に発揮され、青春の1ページを彩る素晴らしい大会となるようご期待いたしますとともに、本大会の開催にご尽力をいただきました全日本学生スキー連盟をはじめ、多大なるご協力を賜る関係者の皆様に心から敬意と感謝の意を表しまして、歓迎の挨拶といたします。



学生運営委員長(専修大学)

平 沼 未 菜



北海道名寄市・士別市の広大な雪原と良質な雪質、そして長野県上田市の恵まれた競技環境という、特色のある2地点におきまして、秩父宮杯・秩父宮妃杯「第99回全日本学生スキー選手権大会」が開催されますことを、大変嬉しく思います。

そして、本大会開催にあたり準備・運営にご尽力いただいた、各市町役員の皆様、公益社団法人全日本学生スキー連盟の役員の皆様、ならびに関係各位の皆様に、心より感謝申し上げます。

選手の皆様は、1年に1度の本大会に向けて、日々努力を重ねてきたことと思います。この恵まれた環境の中で、その成果を存分に発揮されることを

心より祈っております。

また、皆様の努力や取り組みは、競技成績にとどまらず、スキー人口の増加や、今後社会で活躍していく上での大きな糧になることと思います。

本年度の本大会は、北海道名寄市・士別市および長野県上田市の2会場による分散開催となります。会場が分かれる中でも、全国の学生が同じ志を示し、一体感を持って大会に臨めるよう、学生運営委員一同、また私自身もこれまでの経験を活かし、更に円滑な運営に努めてまいります。

一方で、本大会の運営には、各大学より派遣していただいた学生運営委員の皆様のサポートが必要不可欠です。学生の協力なしでは大会の運営は成り立たないほどの重要な役割で、大学生活の貴重な経験にもなります。参加する全ての学生が支え合い、感謝の気持ちを忘れず、全員で取り組んでいきましょう。

本大会は上記の通り「学生の学生による学生のための大会」として、多くの方々に支えられて成り立っています。

期間中は、学生運営委員会を中心に精一杯運営いたしますが、至らぬ点もあるかと思います。その際は、役員をはじめとする関係者の皆様、そして何よりお世話になる地元市町民の皆様には、ご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催にあたりご尽力いただいた多くの方々に改めて厚く御礼を申し上げるとともに、選手の健闘を祈念し、参加する全学生を代表してのご挨拶とさせていただきます。